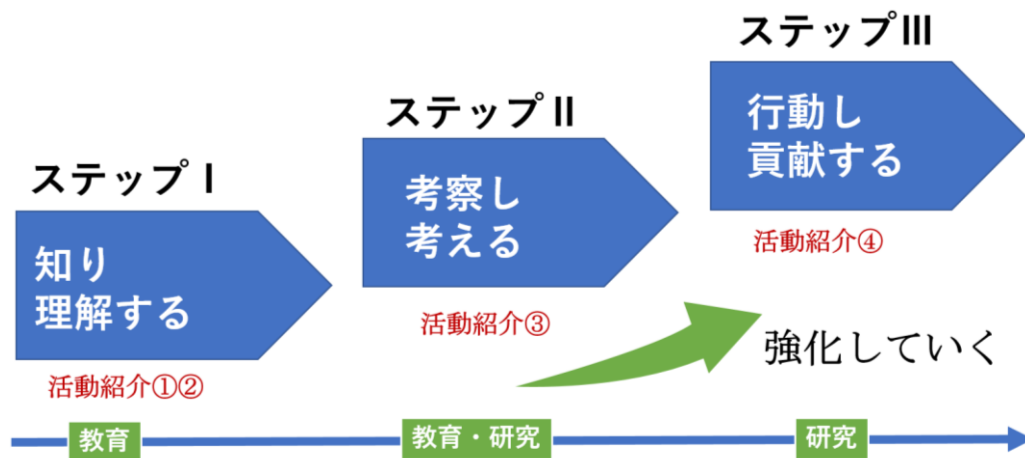


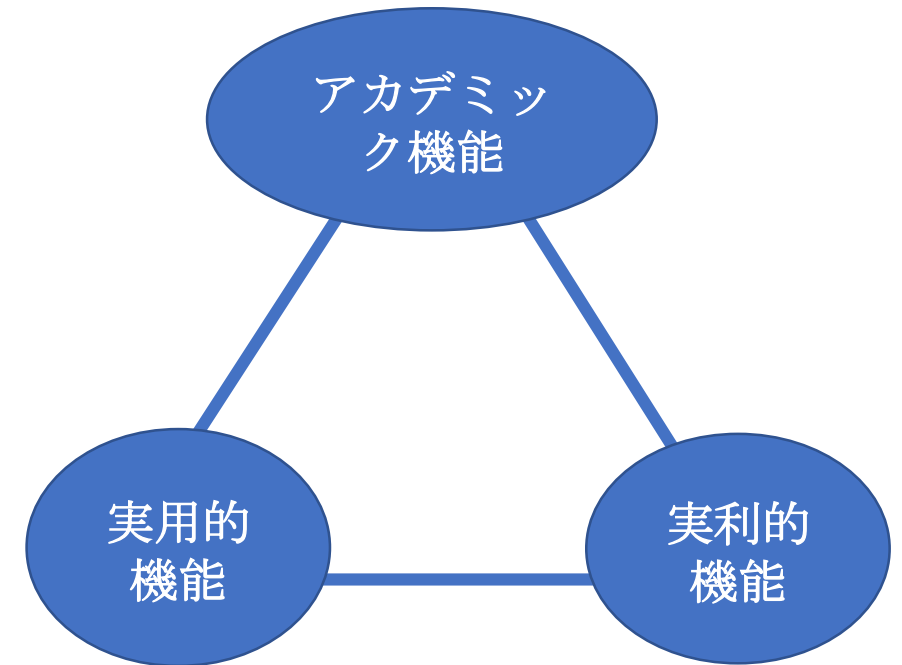
地域共創の実現に関する考え方 今後の方向性について

“仲間”を作る & “仲間”を増やすこと

そのため、大学が地域との**連携**が不可欠である
しかし、どのように連携していくべきなのか？



大学の社会的機能



※飯塚重善「大学教育における地域連携活動の在り方
に関する一考察」『国際経営論集』No. 55, 2018より

これからも地域づくりと大学の教育・研究をリンクさせながら、地域貢献する。

地域を「知る」

活動紹介①地域経済の振興を目指し，鳥羽市観光業界と連携し，日本人と外国人観光客に対して観光資源に関する意識とニーズに関する調査を行った（令和4年度と令和5年度）

日本人観光客(n=230)の居住地



外国人観光客(n=51)の国籍



この活動を通じて漁観連携の課題を明らかにしただけでなく，大学生の地域への関心を高めた。

※研究室構成員（計12名）全員参加し，境屋菜月（R5年度卒業）により取りまとめた。

※当調査活動の実施にあたって，鳥羽市から支援を受けた（「鳥羽市大学ゼミ合宿支援事業」令和4年6月20日付鳥羽市指令観第10号補助金）

地域のことを「考察し・考える」

活動紹介③尾鷲市役所・地元漁業関係者の協力の下で、産地仲買人（水産加工業者、鮮魚出荷業者、小売業者など）に対するヒアリング調査の実施（令和4年度）



地域が抱えている課題の解決策を探るために、地域の産業を支えている事業者に耳を傾ける。

調査結果を地域に
フィードバックする

この調査を通じて、学生の地域関係者とのコミュニケーション能力を高め、地域への理解も深めたと同時に、地域貢献の意欲も高めた。

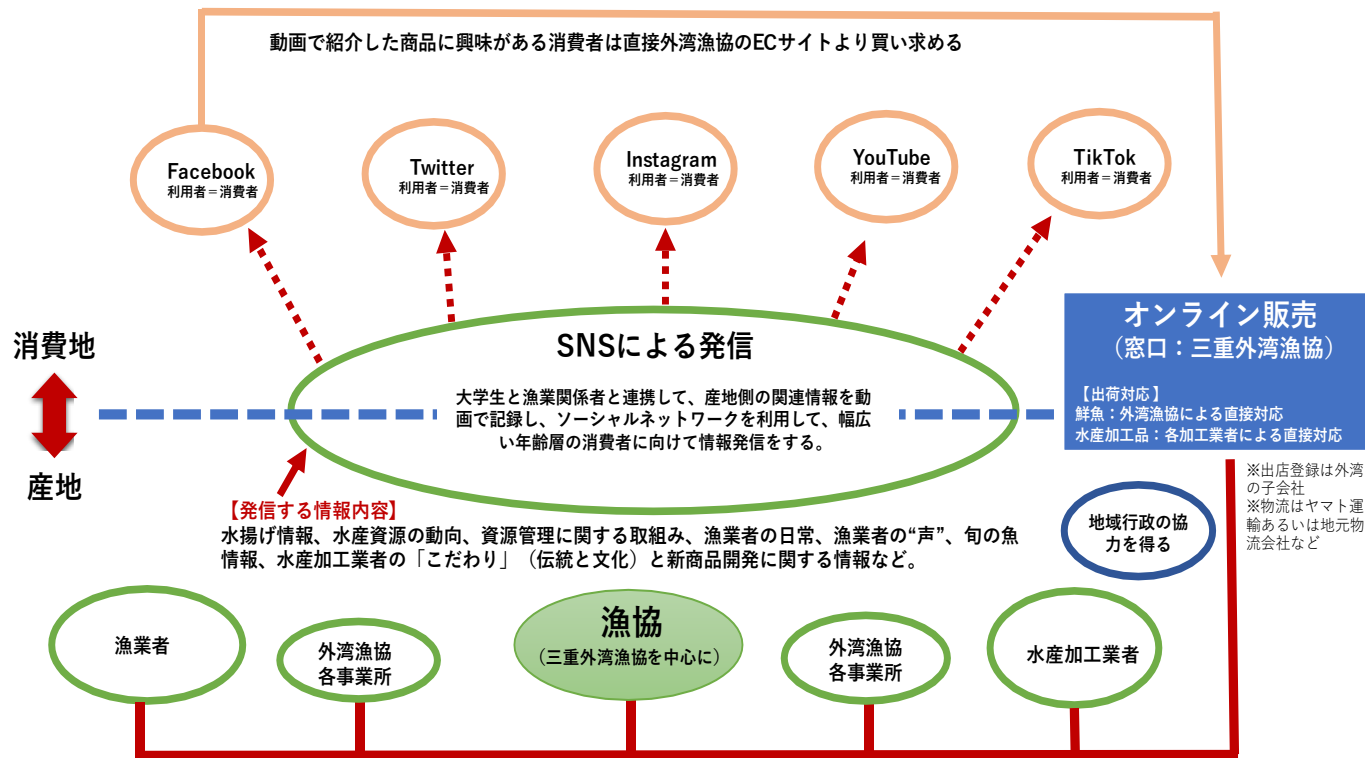


※この調査は東紀州サテライト事業活動の一環として実施したものである。

地域貢献のために「行動する」

活動紹介④三重外湾漁協と連携し、漁協中心とする電子商取引の仕組みづくりと水産物販売促進への取り組み活動（令和5年度～）

図1. 漁協中心とする電子商取引の仕組み



※この取組は本学の地域サテライト推進事業活動の一環として実施したものである（進行中）

組織構成 (検討&実施グループ構成員)

大学側

- ・常清秀（教員）
- ・野沢響（M2）
- ・任津輝（M2）
- ・王志航（M2）

漁協側

- ・外湾漁協の常務 長井理理事
- ・販売事業課 百合本課長
- ・経営課 岡課長
- ・尾鷲事業所 山崎所長

配信済み動画

